

MARLEY & ME



今回はMarley & Me (John Grogan, 2012, Pearson Education)を紹介します。

若い夫婦のJohnとJennyは子犬を飼い、Marleyと名付けます。Marleyはだんだんと大きくなって、わがままになり、言うことを聞きません。それでも—

さあ、やっぱり続きは読んでのお楽しみです。英語は全体的に読みやすく、それほど難しい単語も含まれていません。基本的な単語でここまで物語を表現できるのか！と驚くかもしれませんね。そんな作品からポイントを2つ紹介します。

PICK UP WORDS!

“Are you telling us that we have to leave the class?”
I said. (p. 11)

一見なんでもない、簡単な文に見えますがきちんと解釈できるでしょうか。Are you telling us…?は「…と私たちに言っているの?」と意味で、相手の言ったことの意味を再確認したり、相手の発言について不満を示したりするときに使われます。tellは進行形でつかうと相手に何かをするように促すようなニュアンスをもつことにも注目。類例として、I’m telling you…(いいかい、言っておくけど…、…だって言っているんだからね)があります。これはTaylor SwiftのWe Are Never Ever Getting Back Togetherという曲にも出てきます。ぜひ聴いてみましょう。

ちょっと脱線しました。元に戻って、次はhave toです。これもいろいろな使い方をする表現ですが、ここでは「一せざるを得ない」という意味です。「状況からして仕方なく・・・」というニュアンスがあります。したがって、過去をふりかえって「仕方がなかったんだ、そうするしかなかったんだ」というときは、I had to.と言ったりします。意外とさっと言えない表現かも？

たった一文でも学べるポイントはたくさんありますね！